



「風と光」
豊中高校
創立70周年記念作品

「白い雲」
野畑図書館
(春日町)

ウインドキャラバン
フィンランド
凍結したイナリ湖上

「宇宙の花」
柴原駅前広場
(柴原町)

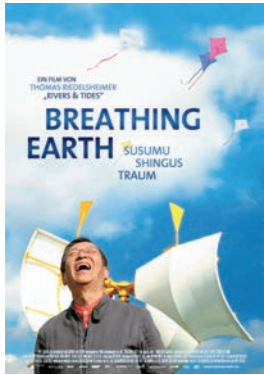
「森のささやき」
千里体育館
(新千里東町)

「翼にのって」
庄内体育館
(野田町)

アートとは、どんな時代においても根本的には人間への愛、すなわちお互いを信じ合うことに基づいています。美しいものを見て感動したり、映画を観て泣いたり、大笑いしたりするのは人間だけ。これらは人間らしさの根幹と言えるのではないのでしょうか。言語や時代の違いを超えて、互いに人間であること、この地球に生まれた幸せを分かち合え、分かち合えるのがアート。今の時代にはそういったアートの力がこれまで以上に大切になっていると思います。アートには法律のような強制力はないから逆にアートによって人が動かされるとしたら、それはその人の本当の気持ちから湧き起ってきたことなんです。

社会が大きく変化して経済中心主義になっていることへの危機感から、私は地球の自然の素晴らしさを楽しみながら人に伝えたいという気持ちも強くなりました。このため、微風にも反応したり、水の重量を回転運動に変えたりするなど、普段は気づかない地球の変化に富んだ自然のリズムを、動きに翻訳して見せる立体作品づくりに取り組んできました。

長年、風や水と付き合ってきた私は今、自然エネルギーで自立する村「ブリージング・アース(呼吸する大地)」を作りたいという夢をもっています。地球の自然環境をこれ以上傷めることなく生きていく方法を、様々な専門家が分野を超えて一緒に研究する村。歴史的な洞窟住居がユネスコの世界文化遺産にもなっている南イタリアのマテラという町と8年前に出会い、そのマテラが2019年の「欧州文化首都」に選ばれたことにより、夢の村づくりの実現が一步近づきました。私の経験や技術のすべてをこの村に注ぎ込みたい。自然と深く接することで人間らしさを取り戻すことができる村を作りたいと思っています。



「ブリージング・アース(呼吸する大地)」:自然エネルギーで自立する村の実現に向けて精力的に進む新宮晋さんの姿を描いたドキュメンタリー映画「ブリージング・アース:新宮 晋の夢」が2012年ドイツ人監督によって制作された。

欧州文化首都:ヨーロッパ統合には文化の相互理解が不可欠との認識から、1985年より「欧州文化首都」制度が発足。EU加盟国(当時EC)の文化閣僚会議で、毎年、加盟国2か国から1都市ずつを「欧州文化首都」として選び、年間を通して様々な芸術文化に関する行事を開催し、相互理解を深めている。

私が岡町に生まれて育った時代は戦中から戦後の間もない頃であり、機銃掃射で友達が亡くなったり、食糧難で餓死する子どもが近所にいたりする悲しい時代でした。それでも、まだ自然豊かで周りは田んぼが広がっていた。そして、すぐ近くにあった飛行場は、子どもたちの遊び場でした。私の空へのあこがれを育んだ場所です。そんな子ども時代を過ごしたことが、今の作品づくりに影響していると思います。

アートが世界を変える

とよなか魅力エッセイ

造形作家 新宮 晋さん



Profile
1937年豊中市生まれ。大阪府立豊中高等学校卒業。東京藝術大学絵画科を卒業後、6年間イタリアへ留学。風や水など自然を生かした立体作品を数多く制作。作品は美術館、公園、広場、空港など世界各地の公共空間に設置され、広く親しまれている。本市内においても、千里体育館や柴原駅前広場など5か所に設置されている。2000年からは風で動く彫刻を1年半かけて、世界のへき地6か所に巡回設置し、現地の人々と文化交流を図る「ウインドキャラバン」を展開。2014年、兵庫県三田市有馬富士公園の休養ゾーンに、13点の風の彫刻が常設された「新宮 晋 風のミュージアム」がオープン。「いちご」「くも」「旅する蝶」などの絵本作家としても知られる。



目次

特集 **アートの時間**

1時間目 とよなか魅力エッセイ
「アートが世界を変える」 2

2時間目 トークセッション
「暮らしとアート」 4

3時間目 豊中アート社会見学(体験編)
「参加してこそわかる、その魅力」 8

4時間目 豊中アート社会見学(鑑賞編)
「普段着でアート鑑賞」 10

暮らしと表現
「表現活動は生きる原動力」 13

企業探訪
「豊中のオンリーワン企業」 14

とよなかグラフィティ
「歌い継がれる、名曲」 16